

せとうち防災リーダー フォローアップ研修

事例報告①：牛窓・中浦区自主防災会

令和6年12月18日(水) 中央公民館 多目的ホール

中浦地区について

- ・牛窓町牛窓地域に位置。
- ・151世帯 人口 292人 高齢化率 53.4%(令和6年11月現在)
- ・地域のハザードは、地震(最大震度6弱)、津波、高潮、土砂災害。
- ・令和2年3月に「牛窓・中浦区自主防災会」として市の認定を受ける。
- ・防災会は役員8名で運営。うち防災リーダーは5名。



自主防災会の立ち上げと、地域住民の意識

- ・平成23年、千葉在住時に東日本大震災を経験。
- ・6年前、牛窓に移住。
- ・住民避難の一助となればと、当時の区長と防災リーダー研修に参加。
- ・令和2年3月に自主防災会として市の認定を受けたが、同時期に新型コロナウイルスが流行。約2年間は主だった活動ができなかった。
- ・当初、住民に南海トラフ巨大地震による津波の話をする、「牛窓に津波なんて来るわけないだろう」「淡路島や小豆島があるから大丈夫だ」と取り合ってもらえなかった。

牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(防災関連文書の回覧)

- ・コロナ禍で、いかに住民に危機意識をもってもらえるようになるか悩み、毎月地区の回覧で防災関連文書を流すことに。
- ・現在もほぼ毎月継続している。
- ・徐々に地区住民の防災意識も高まり、防災役員、防災リーダーが増えてきた。

添付1

地震に対する備えは出来ていますか？

牛窓は、高潮の被害はあったものの、いわゆる大規模災害にみまわれたことがなく、自分の住んでいる地域が大きな地震で大きな被害を受ける可能性が高いことをしっかり認識されている方が、まだまだ少ない様に感じられます。

専門家は断言しています。

30年以内に70～80%の確立で南海地震はおきると言っていますが、30年以内に地震が起きるか起きないかではなく、地震は必ず起きますが、それがこの30年以内に起きる確率が70～80%であるということです。専門家は一番あやしい時期の前後15年の幅で30年以内と言っているわけですから、これを提唱してから5年は経ちますので、あと10年後位が一番あやしい時期になります。

ということは周期は100年位ですが、決まっているわけではなく、長い時も短い時もあり、今回想定される周期で言えば、100年をとうに過ぎていますから、**今すぐ起きても専門家からみれば不思議ではない状況**なのです。

ですから、テレビでも大々的に「特集」を組んで何度も報道しているのです。**地震は必ず起きます**。それも各地で過去にも体験したことがないような**大地震が起きています**。阪神、東日本、熊本、北海道、能登どこをとっても大変な地震であり、被災者の皆さんは災害対策をもっとしておけばよかったと大変後悔されております。

今からでも遅くはありませんので、**避難場所や避難所の確認、非常時の持ち出し品や在宅避難時の水や食料、簡易トイレ等の準備**をしましょう。

防災リーダー 小金井 康雄

牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(令和4年5月24日 避難訓練)

- ・コロナ禍が落ち着いた時期を見計らい、地区住民を対象として、地震・津波を想定した避難訓練を実施。
- ・避難先は、市の指定緊急避難場所に指定されている永楽学園及び本蓮寺。
- ・雨天であったが、2施設合計で約40名が参加。
- ・避難後、アンケート調査を実施。



牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(届出避難所の登録)

・地区に、避難後に寝泊まりする施設がないことが課題。

・令和5年5月～6月にかけて、地区内3か所を届出避難所として登録。

(永楽学園、本蓮寺、眞光院西寺)

・市から備蓄物資の提供を受けたほか、市・市社協の補助金を活用して資機材を整備。



牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(届出避難所 資機材整備)

・令和5年度に「自主防災組織活性化
促進事業補助金」を活用し、簡易トイレ、
LEDランタンを購入。

・防災役員で届出避難所に資機材を
搬入。併せて、届出避難所運営研修を
実施。



登録避難所運営の「肝」

地震は突然やってきます。南海地震が発生すると同時に津波警報が発令されます。そして避難所へ避難民が殺到してきます。

その時にまず重要になるのが、避難所の現状把握です。

非難されてきた方が大勢いるなか、まずその避難所が地震による影響で避難所として機能するか確認しなければなりません。

3 避難所

避難所

ます。

です。

避難者

① リー

リーダー

で決め

② 受付

避難者

避難者

する必

③ 食事

毎日の

④ トイレ

トイレを

状況を

⑤ 物品

あらゆる

大変になり

1 避難所の現状把握

① 建物内外の被害状況を確認します。

今後の余震も含め、瓦の大きな損傷や壁や柱に亀裂がないか？

インフラの状況→電気・水道が使えるか確認します。

② 避難者受け入れの為に準備

準備もせずに避難者を受け入れるとその後の避難生活に大きな支障をきたすことになります。

断水していれば、トイレは一旦使用不可にして簡易トイレの体制に切り替えます。

部屋の仕切りをする。動線を確保する為に、養生テープを張り、大まかなはつきり見える区分けをする。

2 受付

避難所での受付は非常に重要であり、避難所を閉所するまで必要です。

まずは、避難者全員(車、在宅含む)から避難所利用者登録票に記入をして頂きます。

その登録票を確認主分けし、傷病者・要支援者・高齢者の順で、トイレや入口に近い場所を提供できるよう算段する。

※ 基本的に3ヶ所とも長期化は前提としていませんが、正規避難所の整備状況から長期化する可能性も否定できませんので、役割の追加等は随時臨機応変に対応するしかありません、係は基本的に1週間でローテーションするべきでしょう。

牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(届出避難所 資機材整備状況)

一時避難所	収容人員	装備品	利用条件
西寺	45人	毛布45枚 水490ml 90本 栄養食品 45食 アルファ米 90食 簡易トイレ1000回分 LEDランタン 4個	台風 線状降水帯 地震 津波
本蓮寺	30人	毛布30枚 水490ml 60本 栄養食品 30食 アルファ米 60食	地震 津波 ※
永楽学園	60人	毛布40枚 水490ml 80本 栄養食品 40食 アルファ米 80食 簡易トイレ1000回分 LEDランタン 10個	地震 津波 ※

※土砂災害警戒区域(急傾斜警戒区域・急傾斜特別警戒区域)に該当

牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(令和6年台風第10号への対応)

- ・令和6年8月30日から31日にかけての台風第10号の対応として、届出避難所のうち、**西寺を自主防災会により開設**。
 - **災害種別(今回は高潮、土砂災害)と各施設の利用条件**をもとに、開設の可否を判断。
- ・30日 午前9時に、海近くの**独居高齢者7人に電話し、避難行動を確認**。
- ・同日 午後3時から、**防災リーダー2名が待機**。
- ・潮位の推移を注視しつつ、定期的に市へ状況報告。
- ・台風の勢力が弱まったことで、避難者は0人。午後8時をもって届出避難所を閉鎖。

牛窓・中浦区自主防災会の取り組み(令和6年11月3日 避難訓練)

- ・地震、津波想定での避難訓練を実施。
- ・事前に2回にわたって地区の各組に案内を出し、約20名が参加。
- ・瀬戸内市の避難所事情や届出避難所の役割等について説明。
- ・「避難所利用者登録票」を記入してもらい、避難者情報を事前に把握。
- ・簡易トイレの説明、体験会を実施。



今後の課題

- ・要配慮者(高齢者や障害者など)の災害時の避難をどうするか。
- ・災害時のご近所どうしの声掛けや確認体制をどうするか。
- ・一時避難所での避難生活が長期化した場合の高齢者等支援。
 - 簡易ベッドが欲しいが、施設に保管スペースがない。
- ・住民の危機意識のさらなる向上。

などなど、課題をあげればきりがありませんが…。

